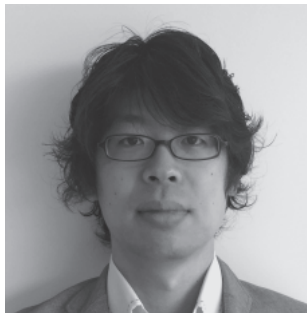


設計・計画部門



すな がわ まさる
砂 川 善

生年月日 1979年5月アメリカ生まれ
最終学歴 2007年ワシントン大学
建築学部 修士課程修了
業務職歴 2007年
LMN ARCHITECTS入社
2009年佐藤総合計画入社
現在 関西事務所 設計主任

●担当した主なプロジェクト

2013年 土佐女子中学高等学校
記念講堂兼体育館
2014年 岡山法務総合庁舎
2014年 あまーち拠点施設
2015年 和歌山労災病院新棟

■青年技術者のことば

建物は利用者の物であると同時に全体で街並みや景観を形成し、人々の中では、それぞれの記憶として刻まれます。公と私がさまざまな形で共存し続けます。

その複雑な連立方程式を解くかの様な、建築設計の難しさ、そこから、ひとつの解にたどりついた瞬間の楽しさをいつも感じて設計をしています。

だからこそ、常に施主や利用者とは対話をし、敷地とその周辺を歩き、時には自ら測り、スケッチをし、手と頭を動かしながら続けることを心がけています。

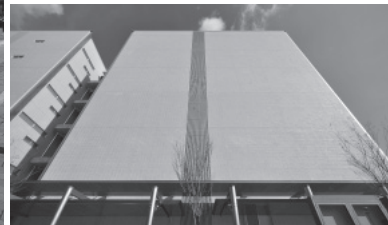
設計者としては至極当然のことなのかもしれませんが、今回の受賞は設計者となり10年が経ち、自らの佇まいを振り返る良いきっかけとなりました。

■すいせん者

吉田諭司
(株)佐藤総合計画 関西事務所
執行役員関西事務所長

岡山法務総合

岡山の地勢である「瀬戸内海の穏やかな海と背後に佇む山々」をキーワードに、中庭を含めたランドスケープ、主出入口前の大庇、エントランスホールの空間を一体的にデザインしました。また、外観は国道に対して隣接する裁判所と壁面ラインをセットバックした位置にて揃え、前面のランドスケープを設けることにより、一体感と広がりのある都市景観を形成しています。



土佐女子中学高等学校 記念講堂兼体育館

土佐女子中学高等学校の制服の襟に設けられた親子線、既存の記念講堂兼体育館のシェル構造を踏襲した象徴的な形態の体育館とすることで歴史と記憶の継承を表現しています。内部空間は高知城の見えるメインアリーナ、緑に包まれたサブアリーナといった居心地の良い空間となるように設計しました。

